

学校法人 佑愛学園 愛知医療学院大学

令和八年度 入学試験問題

令和八年二月二日（月）

一般選抜前期②

【国語】

【注意事項】

- ・試験監督の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- ・試験問題に関する質問は、字句の不鮮明による判読不明以外一切問い合わせできません。
- ・試験時間中は、退室できません。
- ・不正行為発覚時は、直ちに退室を命じるとともに厳正に対処します。

受験番号

氏名

□ 次の文章をよく読んで後の問いに答えなさい。なお、出題の都合で一部変更した箇所がある。(配点35)

第二次世界大戦前後から六〇年代の前半にかけて、「言語の意味の区分は恣意的である」というソシュール(注1)の主張や、「言語が違えば世界が違って見える」といったウオーフ(注2)らの説が一世を風靡(ふうび)します。そこで、言語学者だけでなく、文化人類学者や(1)シンリ(注1)学者たちも、そうした説が本かどうかを実際に調査しようとなりました。

その際、もつともよい調査対象は色の名前だと考えられました。色の違いは、物理学的には光の波長の違いです。そして、波長は連続的に変化していきますから、その中のどこに切れ目を入れて区別するべきかということについて、光の側に必然的な根拠があるわけではありません。人の見える光(2)カシ(注1)光の波長は、おおよそ四〇〇ナノメートルから八〇〇ナノメートルの間ですが、その中の特定の波長を境に光の性質が激変するなどといったことはない。にもかかわらず人間は、紫・青・緑・黄・赤などを区別します。つまり、そうした区分は人間の側が恣意的に入れるものだから、言語によって異なるはずだと考えられたのです。

ところが実際に調査してみると、^A驚いたことにと**いうべきか、当たり前というべきか、色の名前や区分には、言語や文化を超えた普遍性がある**ことが見いだされたのです。

アメリカの人類学者ブレント・バーリン(一九三六～)と言語学者のポール・ケイ(一九三四～)が一九六九年に出版した『基本の色彩語—普遍性と進化について』(日高杏子訳、法政大学出版社)という本は、^Bこうした研究の古典と**いってよいでしょう**。

かれらは、二〇の異なる言語の話者にさまざまな色のついた(3)シ(注1)ヘンを見せ、そのなかから「もつとも基本的な色」だと思ふものを選び、その名前を言うよう求めました。それから、その名前と呼ぶことのできるシヘンをすべて選びだすように頼みました。こうした調査の結果明らかになったことは、「もつとも基本的な色」の例として選ばれたシヘンはほぼ一定だということでした。ただ、その名前と呼ぶことのできる色の範囲には多少のばらつきがあるようでした。

そうした「基本的な色」は、白・黒・赤・緑・黄・青・茶・紫・ピンク・オレンジ・グレーの十一色だったそうです。かれらは、これらの色を「焦点色」と呼んでいます。

さらにかれらは、色の名前の進化についても論じています。つまり、色の名前が増える順番には規則性があるということです。まず、ある言語において色名が二つしかないとき、それらは黒と白である。三語ある場合には、そこに赤が加わる。さらに、四語では緑または黄が加わるので

すが、この場合の「緑」は青色を含みます。日本語では「青々とした畑」や「青⁽⁴⁾シンゴウ」などのように、「あお」ということで緑色も指しますが、そういう青と緑を一緒くたにした名前は、日本語以外にも広く見られるのです。そのあとは、青、茶の順番で増加し、八語以上の色名がある言語の場合には、紫、ピンク、オレンジ、グレーが加わるといいます。

色の見え方には人類普遍性がある、つまり、人間は誰でも同じように色を見ているというのは、^C考えてみれば当たり前です。色は、目の網膜にある錐体細胞^{すいたい}で認識します。錐体細胞には、青の光にもっともよく反応するものと、緑にもっともよく反応するもの、赤にもっともよく反応するものの三種類があります。ある波長の色に対して、それらの三種類の細胞がそれぞれどれだけの強度で反応したかによって、色が認識されます。このように、色の見え方は人間の目の遺伝的な、あるいは生物学的な構造に大きく依存しているのです。要するに、色の区別には^Xな必然性はなく、その意味ではたしかに「^Y」だが、人間の身体構造による必然性（いわば「^Zな必然性」）はあるといったらよいかも思えません。

（山口裕之『みんな違ってみんないい』のか？）

（注1）ソシュール：スイスの言語学者・哲学者。「近代言語学の父」とも呼ばれる。

（注2）ウォーフ：アメリカの言語学者。

問一 傍線部(1)～(4)はすべて二字熟語であるが、「上の漢字」と同じ漢字が使用されている熟語と、「下の漢字」と同じ漢字が使用されている熟語を記号で選択した場合、その記号の組合せとして正しいものはどれか。後の【共通選択肢】①～⑥からそれぞれ1つずつ選びなさい。

マークシート解答番号

1

4

(1) 「シンリ」 マークシート解答番号 1

〈上の漢字〉 「シン」 ↓ (a) 所シン

(b) シン空

(c) シン痛

〈下の漢字〉 「リ」 ↓ (a) 脳リ

(b) 受リ

(c) リ便

(2) 「カシ」 マークシート解答番号 2

〈上の漢字〉 「カ」 ↓ (a) 衆カ

(b) カ決

(c) 幾カ

- 〈下の漢字〉 「シ」 ↓ (a) シ柱 (b) シ南 (c) 座シ
- (3) 「シヘン」 マークシート解答番号 3
- 〈上の漢字〉 「シ」 ↓ (a) 白シ (b) 糜シ (c) 宗シ
- 〈下の漢字〉 「ヘン」 ↓ (a) ヘン見 (b) ヘン言 (c) 周ヘン
- (4) 「シンゴウ」 マークシート解答番号 4
- 〈上の漢字〉 「シン」 ↓ (a) シン敵 (b) シン浅 (c) 過シン
- 〈下の漢字〉 「ゴウ」 ↓ (a) 雅ゴウ (b) 談ゴウ (c) ゴウ語

【共通選択肢】

- ① 〈上の漢字〉が(a)、 〈下の漢字〉が(b)
- ② 〈上の漢字〉が(a)、 〈下の漢字〉が(c)
- ③ 〈上の漢字〉が(b)、 〈下の漢字〉が(a)
- ④ 〈上の漢字〉が(b)、 〈下の漢字〉が(c)
- ⑤ 〈上の漢字〉が(c)、 〈下の漢字〉が(a)
- ⑥ 〈上の漢字〉が(c)、 〈下の漢字〉が(b)

問二 傍線部A「驚いたこと」といふべきか、当たり前というべきか、「とあるが、どういふことを言っているのか。最もふさわしいものを次の

- ①～⑤から1つ選びなさい。マークシート解答番号 5
- ① 調査結果の正否について、当時は軽々に判断することはできなかった、ということ。
- ② 調査結果は意外なものであったが、よく考えれば当然の結果でもあった、ということ。
- ③ 調査結果は、驚くべきものでも、当然視するべきものでもなかった、ということ。

- ④ 調査結果は、言語や文化を超えた普遍性の存在を示すとは言い難かった、ということ。
- ⑤ 色の名前や区分についての調査は、科学的な根拠に基づくものではなかった、ということ。

問三 傍線部B「こうした研究」とあるが、「何を目的とした」「どのような研究」のことを言っているのか。50字以内(句読点・かつこ類も字数に含める)でまとめなさい。解答は記述式解答用紙 I 欄に記入すること。なお、人名(研究者名)は解答に含める必要はない。また、解答は「(と)いう」研究。」で結ぶこと。

問四 傍線部C「考えてみれば当たり前です。」とあるが、各言語における色の名前の違いを調査した結果について、筆者はなぜこのように表現したのか。このことについて説明した次の文の ※ 部分を40字以内でまとめなさい。解答は記述式解答用紙 II 欄に記入すること。

※ 「言語の意味の区別は恣意的である」ことを証明するために、各言語における色の名前の違いを調査したが、そもそも色の区分は、
※ ということが判明したから。

問五 文中の空欄 X・Y・Z に入る語句の組み合わせとして最もふさわしいものを次の①～⑤から1つ選びなさい。マークシート解答

番号 6

①	X	恣意的	Y	物理学的	Z	生物学的
②	X	生物学的	Y	恣意的	Z	物理学的
③	X	物理学的	Y	恣意的	Z	生物学的
④	X	恣意的	Y	生物学的	Z	物理学的
⑤	X	物理学的	Y	生物学的	Z	恣意的

二 次は、筒井康隆の短編小説『講演』の一部である。よく読んで後の問に答えなさい。なお、出題の都合で一部変更した箇所があるが、各文中に読点（、）がないのは原文どおりである。（配点35）

講演依頼の件数が多いから即ち講演の回数も多いとは限らない。特に最近では頼みさえすれば儀助（注）が喜んで来るだろうと見くびったような口調の電話が多く恐らくは退職後十年で金に困りはじめているであろうと推測してに違いない。A 強ち自分の僻みではないと儀助が断じるのは世の中の物価の上昇につれて一般に講演料も高騰していることを知っているからだ。

ある経済雑誌が別冊で諸家の講演料や演目を集めていて儀助も郵送されてきた質問状に答えたため「謝礼最低税込み二十万円」として掲載されている。これは講演幹旋業者あつせんが(1)「チヨウホウしているらしく毎年新しく編集されたものが出ていて儀助に関する記載はそのままだが売れっ子文化人の講演料は年を追って驚くべき高額に(2)「コウシンされているのだ。降るような講演依頼を整理制限する意図もあるだろうし同業者との釣り合いやプライドもあるのだからそれがそれにしても税別百万円とは何ごとか。(3)「ボウリではないかと思っても別段次の年の特集で値引きされた様子はないからそれがその人物の現在の相場なのだ」と認めるほかはない。むろん儀助同様十年來同じ金額の人もいるがたいはいは名も知らぬ人である。

講演の依頼は「講演会へのお誘い」「講演のお願い」「講演御依頼状」などとして郵送されてくる場合もあるがたいはい最初は電話で打診してくる。依頼書を郵送しておきながら再度電話してくる場合もある。聞き慣れないプロダクション名を言う者が多いがこれは講演幹旋業者である。時によく知られた新聞社放送局広告代理店などからもかかってくるがこれもそれぞれの社の講演幹旋業務担当者なのである。主催者から直接かかってくるのは三度に一度くらいのものだ。

若い男である場合が多いがたまに女の場合もある。女の声は儀助には年齢不明である。まず儀助が講演依頼に応じるかどうかの確認から始まる。それから主催者名、開催地を言う。この段階ではまだ日時や会場が決定していないこともある。それから主催者が希望するテーマを述べた^{たず}り儀助の話したことを訊ねたり「ご専門の範囲で何か面白いお話を」と言ったりする。B （ここ）では儀助すこぶる上機嫌のふりをする。「それは現在わたしがいちばん話したいテーマです」とか「話したいことは今いくつかあります」とか「単に面白いということならいくらでもあります」とか浮き浮きと応答する。相手はよほど話したいのであろう謝礼が少なくても来てくれる筈はずと思つて安心する。

最後に金額の話になる。のっけから「実は予算が少くて」と甘えてくる場合は本当に予算が少いのであり二十万円以上であるわけは絶対にならぬ。いから儀助(4)カンハツを入れず「わたしの講演料は二十万円ですから」とC本来なら「二十万円」の上に「たったの」をつけて然るべき口調で言う。気の弱い女はこれで黙ってしまった引き下がるが男は厚かましくもわざと「えっ」などと叫んで絶句してみせたり「いやあ実は」とそれでも尚未練たつぷりに本来の予算の三万円なり五万円なりを口にし「それでは(5)ダメでしょうか」と粘る。女の場合は「それでなんとか先生」などと甘えてくるが儀助は事務的に「そうですか。お話ししたいテーマだったのですが実に残念です。では」などと冷たく受話器を置く。これは先方がのっけから二十万円以下の額を提示した場合と同じであり冷たく電話を切る。

儀助は本来それほど冷たい人間ではない。たとえ三万円であろうと本心では講演を頼まれたことに感謝している。わざと冷たくするのは話しているうちに「では仕方がない。参りましょう」と言ってしまうそうになる自分を恐れるからである。

(注1) 儀助：主人公の渡辺儀助は、フランス近代演劇を専門とする元大学教授。十年ほど前に大学を定年退職した。

(注2) 二十万円以上：出題箇所的一段落前に、「講演料が税込み二十万円以下であれば儀助は頑としてこれに応じない。貪欲なのではなく自身の誇りのためだ。別途に交通費宿泊費も請求する。自分の話にはそれだけの価値はあると思っっている。」とある。

問一 傍線部A「強ち自分の僻みではないと儀助が断じる」とあるが、儀助はどういう事柄に対してどのような断じ方をしているということを示しているのか。60字以内(句読点・かっこ類も字数に含める)でまとめなさい。解答は記述式解答用紙Ⅲ欄に記入すること。なお、解答は「(と)いうこと。」で結ぶこと。また、解答に「儀助は」あるいは「儀助が」という語句は不要である。

問二 傍線部(1)～(5)はすべて二字熟語であるが、「上の漢字」と同じ漢字が使用されている熟語と、「下の漢字」と同じ漢字が使用されている熟語を記号で選択した場合、その記号の組合せとして正しいものはどれか。後の【共通選択肢】①～⑥からそれぞれ1つずつ選びなさい。

マークシート解答番号

7

11

(1) 「チョウホウ」 マークシート解答番号

7

【共通選択肢】

- ① 〈上の漢字〉が(a)、 〈下の漢字〉が(b)
 ② 〈上の漢字〉が(a)、 〈下の漢字〉が(c)
 ③ 〈上の漢字〉が(b)、 〈下の漢字〉が(a)
 ④ 〈上の漢字〉が(b)、 〈下の漢字〉が(c)
 ⑤ 〈上の漢字〉が(c)、 〈下の漢字〉が(a)
 ⑥ 〈上の漢字〉が(c)、 〈下の漢字〉が(b)
- (2) 「コウシン」 マークシート解答番号 8
 〈上の漢字〉 「コウ」 ↓ (a) 失コウ (b) 均コウ (c) 変コウ
 〈下の漢字〉 「シン」 ↓ (a) シン用 (b) シン旧 (c) シン奥おう
- (3) 「ボウリ」 マークシート解答番号 9
 〈上の漢字〉 「ボウ」 ↓ (a) ボウ挙 (b) 欠ボウ (c) ボウ寒
 〈下の漢字〉 「リ」 ↓ (a) リ歴 (b) 私リ (c) リ宮きゅう
- (4) 「カンハツ」 マークシート解答番号 10
 〈上の漢字〉 「カン」 ↓ (a) カン拓 (b) カン隔 (c) カン誘
 〈下の漢字〉 「ハツ」 ↓ (a) ハツ音ね (b) ハツ育 (c) 頭ハツ
- (5) 「ダメ」 マークシート解答番号 11
 〈上の漢字〉 「ダ」 ↓ (a) ダ賃ばな (b) ダ協 (c) ダ落
 〈下の漢字〉 「メ」 ↓ (a) メ花ばな (b) 駿メ (c) 木メ
- 〈上の漢字〉 「チョウ」 ↓ (a) チョウ躍 (b) 慎チョウ (c) チョウ越
 〈下の漢字〉 「ホウ」 ↓ (a) ホウ沫 (b) 模ホウ (c) 至ホウ

問三 傍線部B「ここでは儀助すこぶる上機嫌のふりをする。」とあるが、なぜそのようなことをすると考えられるか。最もふさわしいものを次の①～⑤から1つ選びなさい。マークシート解答番号 12

- ① ひさびさの講演依頼であり、まずはその依頼にすこぶる前向きであることを相手方に確実に伝える必要があるから。
- ② 依頼電話が年齢不明の女性からのものであった場合、男性として陰気な印象を持たれないような配慮が必要であるから。
- ③ たとえ見くびったような口調の依頼電話であっても、今後のことも考慮した場合、明るく対応しておく必要があるから、
- ④ 相手方は経済雑誌の特集を見て依頼してきているので、講演料のことは後回しにして交渉を進めることができるから。
- ⑤ 講演料が二十万円以下だった場合、依頼を断る理由がそのこと以外にはないという口実にすることができるから。

問四 傍線部C「本来なら『二十万円』の上に『たったの』をつけて然るべき口調で言う。」とあるが、どういうことを言っているのか。50字以内(句読点・かつこ類も字数に含める)でまとめなさい。解答は記述式解答用紙 IV 欄に記入すること。なお、解答は「(という)こと。」で結ぶこと。

三 次の各問い(問一～問三)に答えなさい。(配点30)

問一 次の(1)～(3)の意味を持つ語句または慣用句はどれか。最もふさわしいものを、後の①～⑤からそれぞれ1つずつ選びなさい。マーク

シート解答番号 13 ～ 15

(1) 「何とか生活していくさま。」 マークシート解答番号 13

- ① 言語に絶する
- ② お里が知れる
- ③ 口を糊する

- ④ 蛙の子は蛙 かえる
- ⑤ 溺れる者は藁をもつかむ おぼ

(2) 「強いうえにも一層強くなること。」 マークシート解答番号 14

- ① 鬼に金棒
- ② 一挙兩得
- ③ 満を持す じ
- ④ 芸は身を助く
- ⑤ 音を上げる ね

(3) 「相手をばかにしていい加減な態度を取ること。」 マークシート解答番号 15

- ① あごで使う
- ② 鼻であしらう
- ③ 茶々を入れる
- ④ 体を張る
- ⑤ 泡を食う

問二 次の(1)～(3)の慣用句あるいは諺ことわざのなかにある《 》部分に一字の漢字を補うとしたら正しいものはどれか。後の①～⑤からそれぞれ1つずつ選びなさい。マークシート解答番号 16 ～ 18

- ① 「明日の《 》より今日の五十」 マークシート解答番号 16

- ⑤ ④ ③ ②
百 五十 三十 二十

(2) 「≧ ≧の頭も信心しんじんから」 マークシート解答番号 17

- ⑤ ④ ③ ② ①
鯨くじら 鮪まぐろ 鰯いわし 鮒ふな 鮎あゆ

(3) 「噂をすれば ≧ ≧が差す」 マークシート解答番号 18

- ⑤ ④ ③ ② ①
門かど 影 針 潮しお 水

問三 次の(1)～(4)の意味を持つ四字熟語はどれか。後の①～⑤からそれぞれ1つずつ選びなさい。マークシート解答番号 19 22

(1) 「一度失敗した者が勢力を盛り返してくること。」 マークシート解答番号 19

- ① 猪突猛進
② 捲土重来
③ 虎視眈々
④ 百鬼夜行
⑤ 離合集散

(2) 「やましいところがないこと。」

マークシート解答番号

20

- ① 画竜点睛
② 論功行賞
③ 青天白日
④ 泰然自若
⑤ 同床異夢

(3) 「まわりがすべて敵で孤立していること。」

マークシート解答番号

21

- ① 四面楚歌
② 不倶戴天
③ 南船北馬
④ 同工異曲
⑤ 内憂外患

(4) 「恥知らずであつかましいこと。」

マークシート解答番号

22

- ① 変幻自在

⑤ 厚顏無恥
④ 無知蒙昧
③ 傍若無人
② 輕率妄動

